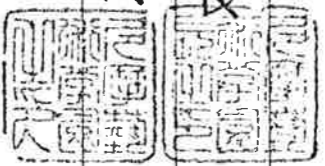


要望書

多摩芸術学園長 松葉 良

多摩芸術学園教職員一同



最近になつて、我々多摩芸術学園教職員は、突然村田晴彦理事長の辞任の噂を耳にした。

寄附行為に明示されている通り、多摩芸術学園と多摩美術大学とは、同一法人の経営下にある同格の学園である。故に、村田理事長の辞任は、多摩美術大学の問題であるのみならず、多摩芸術学園にとつても、より重大な問題である。

我々はここに、村田理事長辞任の真偽の如何は別として、学園にとつたの問題の所在を明示する一方、以下に述べる諸点に依つて、理事長辞任に反対の意を表明するものである。

- 一、村田理事長は、寝耳に水のようなかたちで、なぜ突然辞任するのか、学園にとつてその理由はまったく理解しがたい。
- 二、わが芸術学園は村田理事長の理念のもとに、芸術短期大学への昇格を準備している。これまでいくたびもなく検討を重ね、関係省庁とも交渉を続け、今日に致つている。我々学園の将来にとつて、この短大昇格は、学園存亡を賭けた大事業である。この目標にむかふ過去二十年にわたつて培つて来た学園の教育の実績にかんがみ、新しい芸術教育の場を設立すべき第一歩を踏み出すところである。かかる重大時において、学園の教育的発展を阻害し、また学園を破局に追いやる所為は、教育に情熱を傾ける我々の耐えられないところである。
- 三、さらに、短大昇格の事業となり、昭和四十三年以来の校舎改築工事は、その全計画の三分の一にも満たないまま中止され、今年度計画についても、

何等進展をみていない。このままでは、昭和十五年に建てられた文化殿の木造三階建校舎は、川崎市消防局の最高危険物とまで云われ、速やかなる廃棄改築を迫られているのが現状であるのに、今後にも未完成のまま放置されるのが必定であろう。我々は、この様な施設の中で、甘んじていかなければならぬのであろうか。

四、学園は少数学生による徹底した実技指導を教育の理想にかかげ、今春は創立二十周年を迎えた。この間にあつて、理想としての少数教育の実現は取りも直さず経営基盤の稀薄に苦しむことであつた。学園の歴史は、理想的教育完遂と経営に苦しんだ荆の二十年であつたのである。

そして今、我々多摩芸術学園教職員一同は一致協力して、この創立二十周年を契機に、映画、写真、演劇、芸能美術、テレビの五部門を擁する総合芸術学園としてユニークな教育活動を展開すると同時に、新たに芸術教育研究所を併設して、芸術教育図書出版、地方巡回による地方文化への奇号、学園紀要の発行など、様々な企画を実施、推進して行こうとしているのである。これらの実現も、今後もし、断念するようなことにもなるなら、我々の努力も、学園の将来も皆につつまれることになるのである。

以上の諸点からして、我々多摩芸術学園教職員一同にとつて、理事長辞任の問題がいかに重大であるかに直面した今、学園の将来を思うにつけて、我々は、あくまで村田理事長の辞任については、これを絶対に認めることは出来ないことを、ここに宣言するものである。

以上

昭和四十九年六月五日

学友法人  
多摩美術大学理事

高橋満寿男 殿